

1. 巻頭言

東北大学サイバーサイエンスセンターは、総長の「里見ビジョン」（～2017年度）に対応する部局のミッション（基本理念・使命）として、「世界最先端の情報基盤を整備運用し、先端的な利用技術及び次世代の学術情報基盤に不可欠な研究開発を行い、独創的な研究推進の環境を創生し、人材育成に貢献するとともに東北大学からの学術情報の発信機能を高め、もって学術研究や産業、地域、文化に貢献します。文部科学省認定の共同利用・共同研究拠点として、全国の大学等に大規模科学計算機資源を提供するとともに、次世代の学術情報基盤の研究・開発を行う全国拠点として先端的研究成果を追求します。」を定めて業務に取り組んできました。

27年度（2015年度）は東北大学の第2期中期目標・中期計画期間の最終年度でした。この年度の当センターの具体的な取組みとして、大規模科学計算の分野では、学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点の構成メンバーとして本センターが共同研究者として参画する課題の共同研究を実施し、また、HPCIでも本センターを希望する研究課題を受け入れ、計算機資源の活用とともに、学術研究から産業利用にわたる幅広い計算科学・計算機科学分野の研究開発を推進しました。産学連携研究教育活動の拠点形成を目指す高性能計算技術開発（NEC）共同研究部門の開設や、国際共同研究の推進と関連国際会議の開催などにも取り組んでいます。

全学共通情報基盤の分野では、情報シナジー機構を構成する中核的な部局として、TAINS及び多様化する利用形態と要請へ対応する整備運用を行い、特に学術系無線LANローミング基盤eduroamの国際的な整備と運用について学外からも評価されています。他の分野でも様々な研究プロジェクトを推進して新たな技術の創出や構築に貢献する研究開発に、国内及び国際の共同研究体制も含めて取り組んでおり、また、成果の普及を図っています。研究活動の活性化と発展を図るために、センター内の研究支援制度に加えて、プロジェクト研究推進経費やセンター主催講演会等助成の制度を実施し始めました。

研究開発から得られた最先端の知見により学生の教育を行い、特に実践的人材育成に取り組む、また、情報基盤への取組みの知識と経験をもって学内と社会へ貢献しています。

これら、27年度の運営と活動の詳細について、この年報に掲載しております。ご覧いただき、今後も関係各位のご指導とご支援を頂ければ幸いです。

サイバーサイエンスセンター
センター長 曾根 秀昭